

	<h2>～平和への願いを音楽にのせて～</h2> <h3>平和祈念コンサート&区民による戦時体験講演を開催</h3>	
と き	8月8日（水） 午後6時～8時	
と ころ	練馬文化センター（練馬1-17-37）	
<p>区は、8月8日（水）、練馬文化センターで平和祈念コンサートを開催した。</p> <p>平和祈念コンサートは、音楽を通して、平和の大切さ、尊さに思いを寄せ、恒久的な世界平和を祈念する機会として、平成4年から毎年開催しており、今年で26回目を迎えた。</p> <p>当日は、台風13号の影響で雨風ともに強い状況であったが、会場には、約600名の方が来場された。</p> <p>コンサートでは、ソプラノ歌手の市原愛さんの透き通った歌声と、ピアノ奏者の越知晴子さんが奏でる美しい音色が会場を包み、集まった聴衆を魅了した。</p> <p>戦時体験講演では、区内在住の関口友子さん（92歳）をお招きし、夫・登吉さん（故人）が書かれた、戦後シベリアでの強制労働に関する手記を朗読していただいた。朗読が終わると、会場からは大きな拍手が湧き上がった。来場者からは、「亡きご主人のシベリアの話には涙が止まらなかった」、「ご主人の手記に心をうたれた」、「平和の大切さを改めて痛感した」などの声が寄せられた。</p>		

▲平和祈念コンサートの様子

【平和祈念コンサート出演者】

- ① 市原 愛（ソプラノ）…東京藝術大学卒業、ミュンヘン国立音楽大学大学院修了。平成28年に、久石譲 & ワールド・ドリーム・オーケストラの全国ツアーでソリストを、平成29年公開の映画「追憶」ではオープニングとエンディングの歌を担当。現在はリサイタルやオペラ、コンサートなどで活躍している。
- ② 越知 晴子（ピアノ）…京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。ミュンヘン国立音楽大学大学院修了。これまでに国際音楽祭等数多くの演奏会に出演。多くのオペラプロジェクトに関わる。

【戦時体験講演者】

関口 友子…区内在住。夫・登吉氏（故人）が戦後のシベリアで強制労働を体験。

《講演内容（抜粋）》

- ・収容所の部屋の内側には、南京虫をすり潰した後が多数あり、悪臭が鼻についた。到着後1週間は仕事がなく、雪空を眺めては、内地の父、母、姉弟、故郷の面影を想い暮らしていた。入浴も、開戦前に入ってから以来、5か月間入らず、日本人の衣服には、沢山の蚤が沸いていたが、皆平気でした。戦友に逢っても互いに話をする元気すらなく、ただ「ヨウー」、「ヨウー」と言って別れるだけ。生きていくというだけで、楽しみのない生活が続いた。
- ・人間も牛も馬も、働く動物には皆、等級が付けられた。この等級で決められた量より仕事をすれば、休息の権利やお金をたくさん貰えた。日常作業をする小隊毎に、ノルマがあり、作業量によって、食べ物が貰えた。
- ・ある時、所長の命により、収容所の近くで、水運びの仕事をするようになった。収容所の飲料水を、ソ軍の炊事場や民家に毎日運んだ。ロシアの様子も良く分かるようになり、ロシア人と親しみ合うにつれ、ロシアの人も日本人の気持ちを良く知るようになった。
- ・抑留されてから3年後の昭和23年6月1日、突然、私達全員に帰国命令がでた。シベリア鉄道からの引き込み線に、貨物列車が入ってきた。全員の乗車準備が終わるころには、沢山のロシア人が見送りにきていた。手を振る人や、ハンカチで涙を拭いている人も沢山いた。私も、水運びの仕事をしてきたこともあり、その地区のロシア人を良く知っていたので、皆に手を振って別れた。

